|  |
| --- |
| 開催セミナー |
| 第85回　農楽マッチ勉強会 |
| 日　時 | 2020年2月16日 (日)　　13:30～16:30 | 場　所 | 神戸学生青年センター |
| 講　演　者 |
| 　橋本有機農園　橋本慎司氏　　　関西外国語大学短期大学部教授　沼田晃一氏 |
| タイトル | ミニセミナー：有機農法の基礎講座/～アンデス原産スーパー野菜トマトの魅力～ |
| 内容 | 橋本慎司氏20年前サラリーマンを辞め、兵庫県丹波市市島町で就農、以来無農薬・無化学肥料の有機農業に取組み、年間40品目以上の野菜や平飼いの養鶏、合鴨農法の稲もつくっておられます。英語も達者で、アジアの有機農業団体との交流事業も行なっておられます。今回は、自身の農園での取組みについて語って頂いた後、有機農業の基礎について説明して頂きました。有機農法の基礎講座では、「有機農法のメカニズム」と「農薬のリスク」を中心に講義して頂きました。「有機農法のメカニズム」においては、植物と地中の微生物との共生関係が鍵となることを紹介して頂きました。「農薬のリスク」に関しては、減農薬の矛盾点や農薬の落ちにくさ、農薬使用量と自閉症児の発生に相関関係があることなどを紹介して頂きました。締めくくりでは、「身土不二(健康と大地は密接に関連しており、大地を汚すことは健康を害することにつながる)」という諺を教えて頂きました。　沼田晃一氏住友商事で32年間トマトの仕入れを担当された後退職し、東京農大で博士号を取得されました。現在は関西外国語大学でスペイン語の講師をされているそうです。トマト（特に加工用トマト）の含有成分の効果、栽培法、産地・消費地、歴史等を、映像を交えて説明して頂きました。その後、博士号を取得した際の「ペルーでのトマト栽培研究」について、わかりやすく紹介して頂きました。自然が厳しいペルー熱帯低地でのトマト生産事業化成功により、低緯度でのトマト増産に大きな展望が開けてきているとのことでした。 |
| 文責 | 下岡祐貴 |